

平成17年(2005)度子ども読書ファシリテーター講座・おはなしスキルアップ講座報告

1. 子ども読書ファシリテーター講座

目的：ボランティアどうしのネットワークや学校や図書館等との連携を広げるための方法等をグループワーク等を通して学び、地域でのさまざまな読書活動の充実に活かす。

対象：学校や図書館等で活動しているボランティア

募集人数：各回15名（年間45名）（加えて図書館職員が参加）

○ 第1期（於：たかいし市民文化会館）受講者：17名

回	開催日時	講座内容	講師
1	9月9日(金) 10時～15時	「子どもたちと本をつなぐ活動の推進」	大阪府教育委員会 大阪府立中央図書館
		「子どもへの読書サービスの原点 －地域とのつながりの中で－」	熊取町立熊取図書館司書 原田貴子
2	9月16日(金) 10時～15時	「子どもの読書をコーディネートしよう」	大阪ボランティア協会 事務局次長 名賀享
		ワークショップ 「子どもの読書活動を活性化するために」 コーディネーター：(財)大阪国際児童文学館職員	
3	9月30日(金) 10時～16時	「地域の読書環境ネットワークづくり」	大阪府子ども文庫連絡会 代表 森崎シヅ子
		地域交流会 「おはなしスキルアップ講座」修了生や昨年度の講座修了生、講座講師等との交流会 コーディネーター：(財)大阪国際児童文学館職員	

<主な感想>

- ・ ボランティアのやるべきことやボランティアだからできること、一方で家庭がするべきことをしっかりと考えていきたい。
- ・ 公平性を提供するところは行政なので、ボランティアと行政の両方が必要で、連携して活動する必要があることを実感した。
- ・ 文庫連絡会の中でも交流が少なくなってきたいて、その方面の努力も必要だと感じた。

○ 第2期<モデル事業>（於：富田林市立金剛図書館）

富田林市をモデル市として、図書館と市内の講座修了者、および地域のボランティア、子どもに関わる行政機関を中心に実行委員会を組織して、他の市民団体等とも連携を深めながら、地域のニーズに沿った読書活動を支援するための事業を開催した。

『絵本と子どもの育ち』全3回（於：富田林市立金剛図書館）

参加者 第1回 65名（一般も参加可）

第2・3回 33名（富田林市で子育て支援のグループをつくり、活動している方で、全3回出席できる方）

回	開催日時	講座内容	講師
1	1月25日(水) 10時～12時	「絵本から広がり、深まる世界」	武蔵野大学非常勤講師 永田桂子
2	2月9日(木) 10時～12時	「富田林の子どもたちの現在」 富田林市保健センター、富田林市保育課、富田林市子育て支援課、富田林子ども文庫連絡会、富田林市立図書館、それぞれの立場から見えてきた富田林の子どもの現状を報告。あと、意見交換。	
3	2月16日(木) 10時～12時	「ワークショップ」 絵本・てあそび・わらべうたなど	

<主な感想>

- ・ 図書館、市民、市の子どもに関わる部署が実行委員会の段階から参加し、一緒に企画・運営したため、今後につながる新たなつながりができた。
- ・ 地域で活動している多様なグループの状況があきらかになった。
- ・ 今回の事業を第一歩として、来年度から連絡会が開催できればと思う。
- ・ 講座を受けた人の視点が少し変わり、お互いに影響を受けたので、それをグループに持ちかえり、広がりになればよい。
- ・ これまでの活動の時以上に話し合いを重ねてすすめていったので、良いものをつくるにはエネルギーが必要なのだと実感した。
- ・ 行政の各部署の協力と積極性、仕事ぶりや熱意が伝わってきた。
- ・ 図書館のリーダーシップを実感した講座だった。
- ・ これまでとは違った視点で絵本について考えることができ、今後の選書の役に立った。
- ・ 子どもと大人の大切なつながりをつくるなかで、絵本の役割を再認識できた。

○ 第3期 （於：高槻市立生涯学習センター）受講者：23名

回	開催日時	講座内容	講師
1	1月13日(金) 10時～15時	「子どもたちと本をつなぐ活動の推進」	大阪府教育委員会 大阪府立中央図書館
		「子どもの読書をコーディネートしよう」	大阪ボランティア協会 事務局次長 名賀享
2	1月20日(金) 10時～15時	「子どもへの読書サービスの原点 ー地域とのつながりの中でー」	大阪府子ども文庫連絡会 代表 森崎シヅ子
		ワークショップ パート1 「子どもの読書活動を活性化するために」 コーディネーター：(財)大阪国際児童文学館職員	
3	1月27日(金) 10時～15時	「地域の読書環境ネットワークづくり」	箕面子ども文庫連絡会 新井せい子
		ワークショップ パート2 「私たちが今できること」 ～子どもの読書活動の今とこれから～	

<主な感想>

- ・ファシリテーターの重要性と必要性を痛感した。
- ・ボランティアの方たちや図書館員と交流するなかで、貴重な情報交換ができて、さまざまな気づきがあった。
- ・学校図書館の役割の大切さを痛感し、一層の充実の必要を感じた。
- ・ボランティアをしている講師の方から具体的に活動していく上での問題点や課題を話して頂いたことで、これから自分がどのように関わっていけばよいかという展望がみえてきた。

2. おはなしスキルアップ講座

目的：絵本の選び方、おはなし会の企画のしかた、地域での活動のあり方について講座・ワークショップを通して学び、おはなしボランティアとしてのスキルアップの機会とする。

対象：おはなしボランティア活動経験のある府民

募集人数：各回 40 名（年間 120 名）

○ 第 1 期（於：阪南市立文化センター・阪南市商工会館） 受講者：40 名

回	開催日時	講座内容	講師
1	6月17日(金) 10時～12時30分	「絵本を選ぶ」 ～集団の子どもに本を読むということ～	(財) 大阪国際児童文学館 主任専門員 土居安子
2	6月24日(金) 10時～12時30分	「すべての子どもに本の楽しさを」 ～おはなしボランティア活動を行うために～	視覚障害児のためのわんぱく 文庫代表 福山恭子 豊中子ども文庫連絡会 安達みのり
3	7月1日(金) 10時～12時30分	「おはなし会のプログラムをたてる」	(財) 大阪国際児童文学館 主任専門員 土居安子
4	7月8日(金) 10時～12時30分	「図書館とボランティア」	豊中市立岡町図書館館長 谷垣笑子
5	7月15日(金) 10時～12時30分	「実践！おはなし会のプログラム」 ～企画立案したプログラムを発表し、 受講者相互の意見交換を行う～	(財) 大阪国際児童文学館 主任専門員 土居安子
6	9月30日(金) 14時～16時	地域交流会 「子ども読書ファシリテーター講座」修了生や昨年度の講座修了生、 講座講師等との交流会	

<主な感想>

- ・選書の難しさ・大切さを痛感し、集団の子どもたちに絵本を読むには、もっと多くの本を読んで、選び抜かなければならないと思った。
- ・選書の難しさ、絵本の奥の深さを実感し、仲間とともに勉強する時間をきっちりと取りながら、活動を充実させていきたい。
- ・絵本の選び方に関して、日頃一緒に活動している仲間以外の意見を聞くことができ、有意義だった。
- ・視覚障害児をとりまく現実の厳しさ、すべての子どもに読書環境を整える意義と困難さを実感した。
- ・図書館の職員とのコミュニケーションを大切にしながら、活動をすすめていきたい。
- ・ネットワークの大切さがわかった。今後は、他のグループとも交流の機会を持ちたい。

- ・ とても充実した内容だったので、今回の講座をグループに報告したい。

○ 第2期 （於：柏原市立国分図書館） 受講者：40名

回	開催日時	講座内容	講師
1	10月6日(木) 10時～12時30分	「オリエンテーション」 「すべての子どもに本の楽しさを」	(財)大阪国際児童文学館職員 視覚障害児のためのわんぱく 文庫代表 福山恭子
2	10月13日(木) 10時～12時30分	「図書館とボランティア」	豊中市立岡町図書館司書 須藤有美
3	10月20日(木) 10時～12時30分	「おはなしボランティア活動を行なう ために」	豊中子ども文庫連絡会 安達みのり
4	10月27日(木) 10時～12時30分	「実践！おはなし会の本を選ぶ」	豊中子ども文庫連絡会 安達みのり
5	11月10日(木) 10時～12時30分	「実践！おはなし会のプログラム」 ～企画立案したプログラムに対して、 受講者どうしが議論を重ねる～	豊中子ども文庫連絡会 安達みのり

<主な感想>

- ・ ボランティア活動には責任が伴うことをあらためて痛感し、肝に銘じないといけないと思った。
- ・ 長い時間をかけてさまざまなサービスや情報提供が可能になり、ネットワークをつくってきた図書館の話を聞いて、地域の図書館、学校、保育士、行政、ボランティア、子育て支援グループなどがこれから時間をかけて連携して、子育て支援を行っていければと思った。
- ・ 「市民と図書館がいっしょに育っていく」という話が印象に残った。
- ・ 講師の方の経験から生まれた具体的な話からパワーをもらった。もっと深く子どものことを知る必要があると感じた。
- ・ 子どもの読書に関するボランティアをする上で、地域の子どもの読書活動推進計画他の重要性がわかり、自分の市の状況を調べてみようと思った。
- ・ 自分の考えをしっかりと持つこと、他人の意見を聞くこと、学ぶ姿勢を持つこと、常に勉強して選書の力をつけることの大切さを実感した。
- ・ グループの話し合いの中で、いろいろな人の意見を聞くことでいろいろなことがわかりあい、疑問点などに気づくことができた。絵本をしっかりと分析して、理論化して他の人に伝えることの難しさを感じ、できるようにがんばりたいと思った。

○ 第3期 （於：池田市立図書館） 受講者：42名

回	開催日時	講座内容	講師
1	2月3日(金) 10時～12時30分	「オリエンテーション」 「すべての子どもに本の楽しさを」	(財)大阪国際児童文学館職員 視覚障害児のためのわんぱく 文庫代表 福山恭子
2	2月10日(金) 10時～12時30分	「絵本を選ぶ」 ～集団の子どもに本を読むということ～	熊取文庫連絡協議会 秋本美津

3	2月17日(金) 10時～12時30分	「絵本の物語世界を共有するために」 ～地域での活動に向けて～	熊取文庫連絡協議会 秋本美津
4	2月24日(金) 10時～12時30分	「おはなし会のプログラムをたてる」	熊取文庫連絡協議会 秋本美津
5	3月3日(金) 10時～12時30分	「実践！おはなし会のプログラム」 ～企画立案したプログラムを発表し、 受講者相互の意見交換を行う～	熊取文庫連絡協議会 秋本美津

<主な感想>

- ・視覚障害児との関わりの話を聞いて、1冊の本を選ぶということの重みを感じた。
- ・横のつながり、連携の必要性を感じた。
- ・グループで話し合う中で、情報交換ができて有意義だった。意識の高い方が多く、もっと勉強しなければいけないという思いを強くした。
- ・今後、組織的に勉強会や反省会、準備をしっかりとしていかなければいけないと思った。
- ・ボランティアとしての立場、子どもの前で絵本を読む者としての立場、グループの一員としての立場や意識などの大切さを実感した。
- ・選書等について、ことばにして仲間と十分に話し合うことの重要性をあらためて認識できた。
- ・選書の重要性と難しさを痛感した。

3. シンポジウム・交流会 （於：ホテルアウィーナ大阪）

平成18年 3月10日(金) 13時～17時	シンポジウム 「図書館は、結ぶ。 - 子ども・本・大人 - 」	パネラー 茨木市立中央図書館司書 高橋優子 富田林市立金剛図書館司書 上田栄美 羽曳野市立中央図書館司書 岩佐直美 コメンテーター 日本図書館協会理事長 塩見昇
	交流会	参加者：講座修了者・講座講師・図書館職員・行政関係者ほか